



杉並区立
浜田山小学校

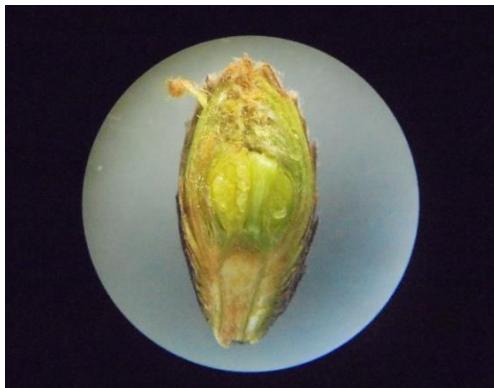
はまだやま

学校だより 第 558 号
令和 3 年度 2 月号

校長 伊勢 明子
副校長 越山 宗治

「桜の冬芽」

校長 伊勢 明子



▲春を待つ校庭の桜の冬芽（顕微鏡×40倍）

掲載写真は、本校校庭のシンボルツリーである桜の花の冬芽（花芽）を縦切りした写真です。

理科室の生物顕微鏡の接眼レンズにデジタルカメラのレンズを直接付け、光軸を合わせ撮影しました。経費の都合上カラーでお見せできないのが残念ですがうっすらとピンク色に色付いた花びら、めしべ、花粉の入った薬が付いたおしべなどがびっしりと折りたたまれて入っています。

桜の花芽は、前の年の夏にはできています。それが秋から冬にかけて、生長しないように休眠状態に入って年を越します。そして十分な低温刺激を受けることで休眠状態から目覚めます。この休眠状態から目覚めた時点を起算日として、温度変換日数を積算し、地域ごとに定めた日数に到達した日を開花日として予想します。それが「開花予想日」とされています。

ご存知の方もおられると思いますが以下の説があります。（1月24日の全校朝会で子どもたちに紹介しました。）

【400℃の法則】：「2月1日以降の平均気温の合計が400℃を超えると開花する。」

つまり、2月1日を目覚めの日として開花予想の起算日に設定し、そこから平均気温を日々足していく400℃を超えると開花するという説です。

本校の桜は、開校当時、地域の方々から寄贈、移植され樹齢70年を超えています。老朽化により大雪や暴風の際、倒壊の危険性があったため専門家に相談の上、令和2年横に広がった枝の大半を伐採しました。そして、周りを立ち入り禁止にしました。しかしながら、冬を乗り越え令和3年春には、スリムになった体に見事に満開の花々を咲かせました。

「冬の間の十分な低温刺激である厳しさ、つらさにあい乗り越えてこそ、春に満開の花を咲かすことができる。」

今年も冬芽は、人の教育と成長に通じる姿を教えてくれています。

2月の生活目標 【体をきたえて 元気になろう】

寒暖の差が大きい日々が続いているが、浜田山小学校の子どもたちは、休み時間や体育の時間など外で元気に体を動かしています。固定遊具やなわとび、鬼ごっこやボール遊びなど新しい生活様式を意識しながら、できることを考えて体を動かす姿勢は素晴らしいです。休み時間や体育の時間の様子を見ていると、各学年短なわとび運動に挑戦するなど、それぞれが目標をもって取り組んでいます。2月の生活目標は「体をきたえて 元気になろう」です。外遊びや体育の授業を通して体力はもちろん、人とのコミュニケーションを高めながら健やかな心身で学校生活が送れるようにしていきたと思います。